

岡原子力委員会委員長の海外出張報告

平成27年3月24日

1. 出張先
米国（ワシントン DC）
2. 出張期間
平成27年3月18日（水）～22日（日）
3. 渡航目的
原子力関係者と核不拡散、核燃料サイクル、原子力政策等について意見交換を行う。
4. 主要日程
3月18日（水） 東京発、ワシントン DC 着

3月18日（水） 米国エネルギー省、大統領府、
～3月20日（金） 原子力専門家等と意見交換等

3月21日（土） ワシントン DC 発
3月22日（日） 東京着

5. 結果概要

(1) 原子力平和利用政策

平成26年4月に閣議決定したエネルギー基本計画に記載されている我が国の核燃料サイクル政策、日本原燃の再処理工場の状況、MOX燃料加工施設の準備状況等について説明を行い、意見交換を行った。また、国際的な核不拡散活動の重要性や、来年の核セキュリティサミットに向けた日米両国の取組について情報交換を行った。

(2) 原子力政策

我が国の原子力政策について説明を行った。米国側からは、我が国の原子力発電所の再稼働や原子炉の寿命延長等に注目している旨発言があった。

また、米国側より、研究者は優秀であるが視野が狭くなっていることも多いことから、研究成果としてプロダクト（成果）を生み出すことを意識する必要がある旨発言あり、原子力の研究開発の在り方について意見交換を行った。

(3) 米国のエネルギー・原子力政策の現状

米国側より、エネルギーや原子力の現状について説明が行われた。主な内容は以下の通り。

- ・将来的には、シェールガス革命により生産が可能になった豊富な天然ガスが、今後の米国経済を支えると考えている。
- ・原子力発電を推進しており、原子力発電所の2014年の設備利用率は、過去最高の91.9%であった。
- ・新たな原子炉の建設が進んでいるとともに、現在、稼働中の原子炉99基のうち、73基が20年間の寿命延長（60年寿命）の認可をNRC

(米国原子力規制委員会) から得ており、18基について審査中である。

- ・2016年の大統領予算要求計画について、原子力エネルギー分野の要求額は908M\$であり、昨年と概ね同額ある。

(4) その他

IFNEC (第4世代原子力炉に関する国際協力) の事務局をOECD/NEAが担当することについて、日本の協力に対して感謝が述べられた。

(以上)